

国立大学法人琉球大学 おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター 研究概要について

～沖縄におけるこどもの貧困対策を
アカデミアにおける医療・福祉・教育の連携によって提言する～

国立大学法人琉球大学おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター
センター長 銘苅桂子

ウェルビーイングとは

- 経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康までを含めて幸福や生きがいを捉える考え方（バイオ・サイコ・ソーシャルモデル）

世界幸福度ランキング 2025

Oxford Wellbeing Research Center と国連持続可能な開発ソリューションネットワークの共同報告

WHR Dashboard<<https://data.worldhappiness.report/table>>

世界一位は8年連続フィンランド

日本の幸福度ランキングは56位

特に30歳以下の若者の幸福度ランキングが低い

→他人や社会への信頼の低下、孤食・社会的孤立の増加



こどものウェルビーイングとは

- 子どもが安全に、健康的に育ち、学び、愛され、守られている状態



物質的ウェルビーイング	家庭の所得や生活水準
身体的ウェルビーイング	生活のリズム 疲労感 健康状態・睡眠
教育的ウェルビーイング	教育へのアクセスや学習成果
社会的場面でのウェルビーイング	友人関係 学校場面（授業・先生との関係） 家庭内での安堵感
主観的ウェルビーイング	子ども自身の幸福感 自分の 未来 を創造する力 生活の目標 将来への見通し

UNICEF（国連児童基金）<https://www.unicef.or.jp/library/>

令和6年度沖縄県こども調査

	沖縄	全国	順位
1人当たりの県民所得（千円）	2,258	3,330	低い方から 1位
非正規職員・従業員率（%）	37.8	34.7	高い方から 4位
母子世帯出現率（%）	2.2	1.2	高い方から 1位
10代女性の出産率（%）	0.47	0.17	高い方から 1位
生活保護率（%）	2.72	1.63	高い方から 3位
就学援助率（%）	23.6	13.9	高い方から2位
高校中退率（%）	1.8	1.4	高い方から2位

内閣府HP（沖縄のこどもの貧困対策に向けた取組：沖縄政策 - 内閣府
<<https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/okinawakodomo.html>>
[kodomo-genjou6.pdf](https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/shiryoku/kodomo-genjou6.pdf)<<https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/shiryoku/kodomo-genjou6.pdf>>

子育て世代、こどもを取り巻く環境は厳しいにも関わらず出生率全国一位の沖縄県で
こどものウェルビーイングの課題抽出、指標策定項目を研究する意義あり

Oxford Wellbeing Research Center

大学に設置されたウェルビーイングに関する世界レベルの研究の拠点

＜センターの目的＞

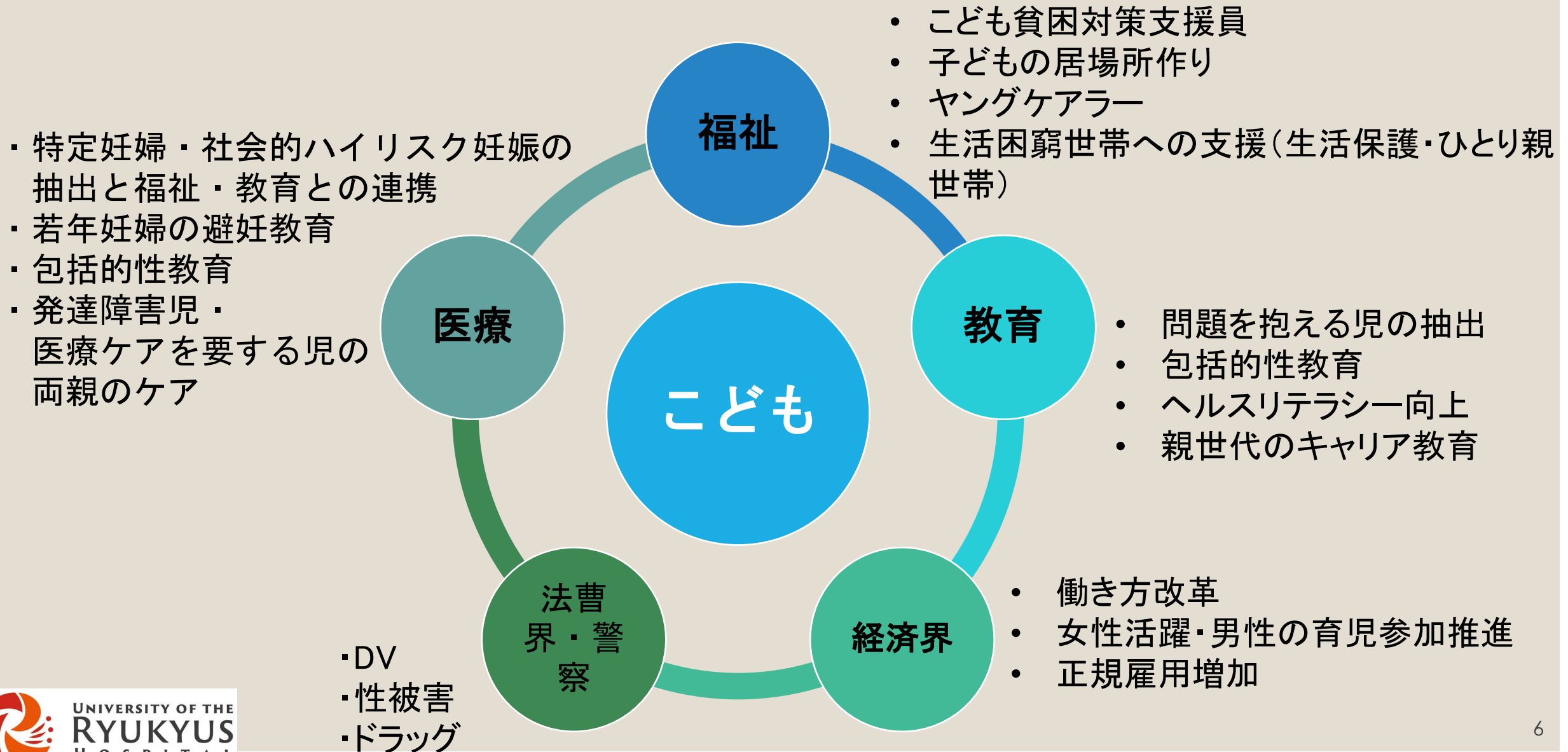
ウェルビーイングに関する総合的な理解を深め、世界中の地域社会がウェルビーイングを意思決定の中心に据え、現在および将来の世代の生活の質を効果的に向上できるよう政策提案を行うこと

地域の課題解決のため研究から政策提言を行うことも
大学の重要な役割



琉球大学においてセンターを立ち上げる意義

多分野の専門家が包括的に議論する場を学内を中心に創設



<研究実施体制>

	研究者	所属
医療分野	銘苅桂子	琉球大学病院 周産母子センター 教授 おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター センター長
	中西 浩一	医学部長 医学研究科育成医学講座 教授
教育分野	上間陽子	教育学研究科 教授 おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター 副センター長
福祉分野	本村 真	人文社会学部長、人文社会科学研究科長、地域共創研究 科長おきなわこどもまんなかウェルビーイングセンター 副センター長

「教育」・「医療」・「福祉」が融合した 『こどものウェルビーイング』指標の設定

- (1) 日本の課題・目的の明確化
- (2) 日本の既存調査の整理
- (3) 日本の指標の在り方
- (4) 指標や結果の示し方の検討、
- (5) こどもとこどもを取り巻く人の意見表明・参画

世界において指標は様々
日本独自の課題に基づく
ウェルビーイングの指標を
考える必要がある

令和5年度こども家庭庁委託調査

諸外国等におけるこどものウェルビーイングの 概念と測定方法に関する調査報告書

MRI エム・アール・アイリサーチアソシエイツ

2025年3月

教育分野：教育支援プログラムの実践研究

研究課題2

学校と連携したヘルスリテラシー向上プログラムに関する実践研究

テーマ		事業の対象	予測される効果	連携機関	医療・福祉との連携
ヘルスリテラシー	自分自身の身体の健康な状態を学ぶための出前授業の実施	児童・生徒	検尿検査提出・性暴力の防止	公立学校・フリースクール	医療
	カウンセラーによる無料相談業務	教職員・保護者・児童・生徒	トラウマケア		医療

研究課題3

困難を有するこどもたちに有効なサードプレイス活用に関する実践研究

テーマ		事業の対象	予測される効果	連携機関	医療・福祉との連携
体験型プログラム・長期休みの居場所などのサードプレイス活用に関する実践研究		児童・生徒	体験格差・貧困対策・CWI向上	不登校支援をしている機関（教育委員会・はごろも・フリースクール等）	福祉

研究課題4

沖縄県におけるこどもの貧困対策支援現場における 「支援指標」の作成とその共通言語化

現状 こどもの居場所の増加等、非専門家も参加した形態で各種支援施策が充実してきている

課題 有効な支援に必要な統一的な支援理論について共通認識がない

➡学校現場と福祉現場の連携不足

支援ニーズの高い児童・生徒が支援につながらない or 離れていく、

「支援員」の早期離職が多い（支援結果が見えず、働き甲斐の減少）

研究目標 （１）沖縄県内の現状に即した「支援指標」の設定

（２）「支援指標」の沖縄県内における共通言語化

➡福祉関係者にプラスして保健師、教師、ネウボラの実現に向けて

（３）設定された支援指標を用いた具体的な支援方法の提示

医療分野

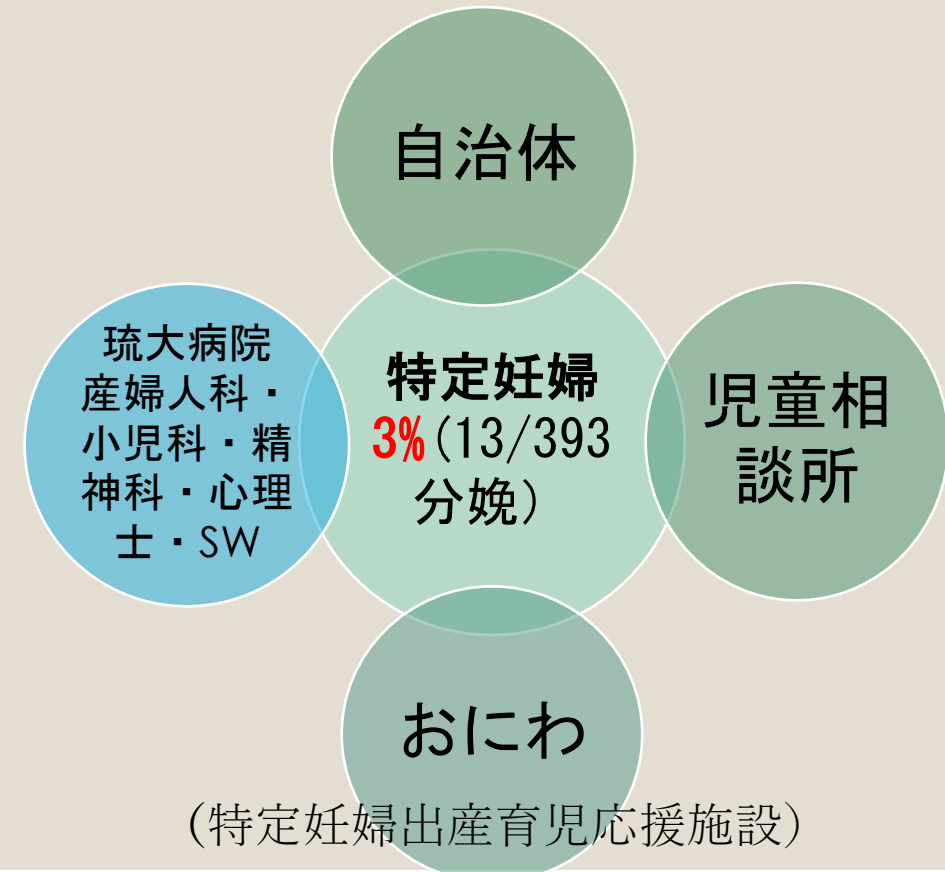
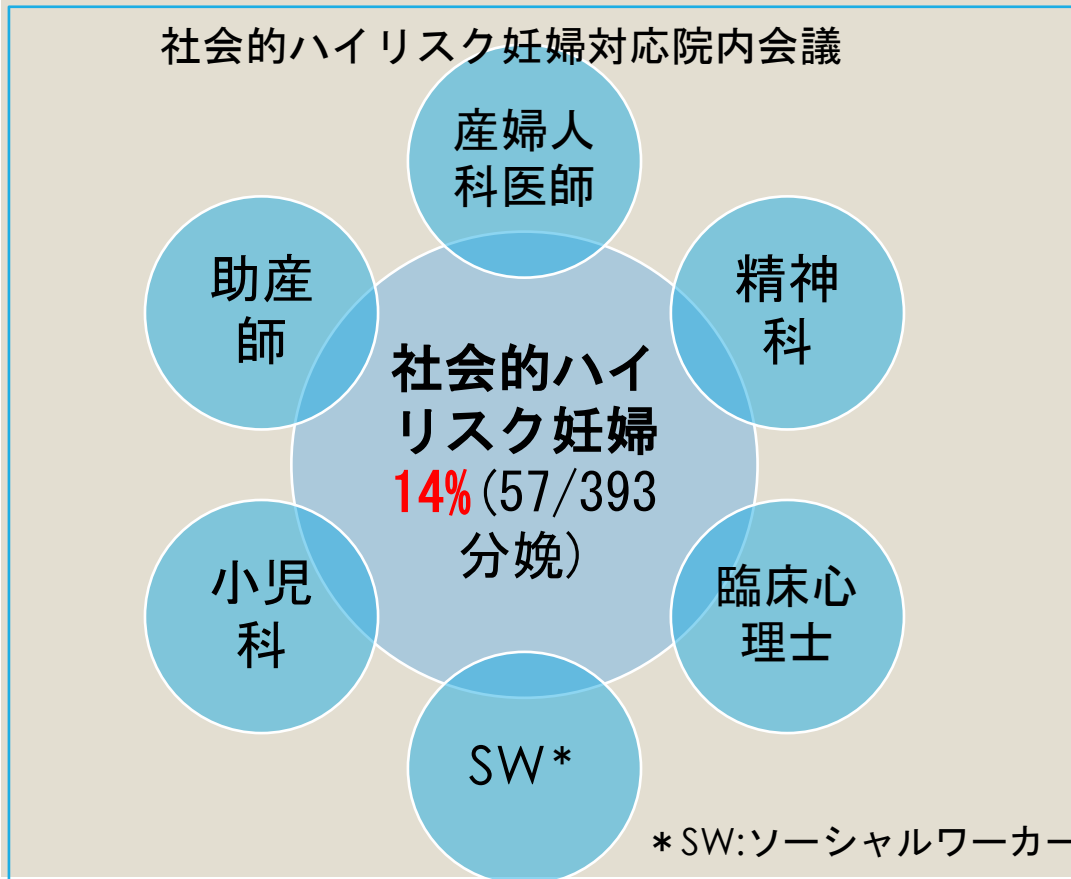
研究課題5

社会的ハイリスク妊娠及び特定妊婦に対する 医療と福祉の連携に関する実態調査

全国調査：社会的ハイリスク妊娠 **8.7%**、特定妊婦 **1%**

琉大病院における社会的ハイリスク妊婦と特定妊婦への対応状況

要保護児童対策協議会



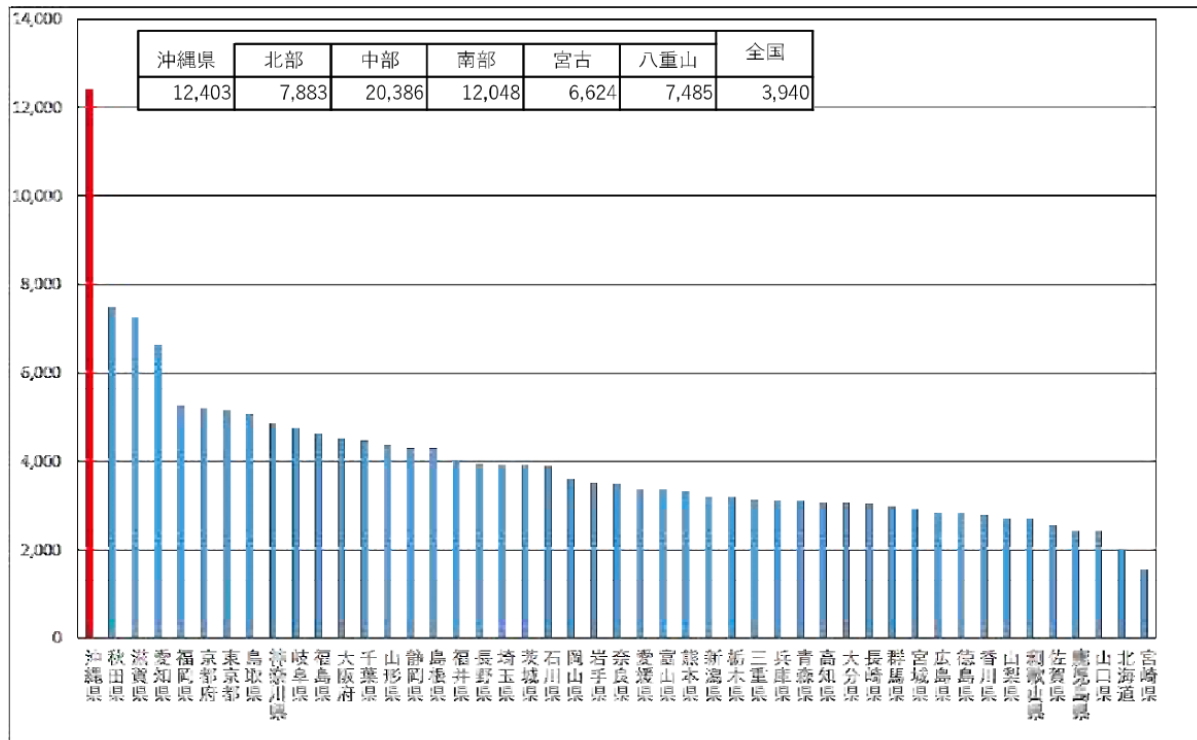
医療分野

研究課題6

小児救急受診者の受診時間、動機、疾患、家族背景に関する調査

時間外受診が全国平均の3倍、2位の約2倍の県民性

図8 救急病院の時間外等受診者数（1施設あたり）（単位：人/年）



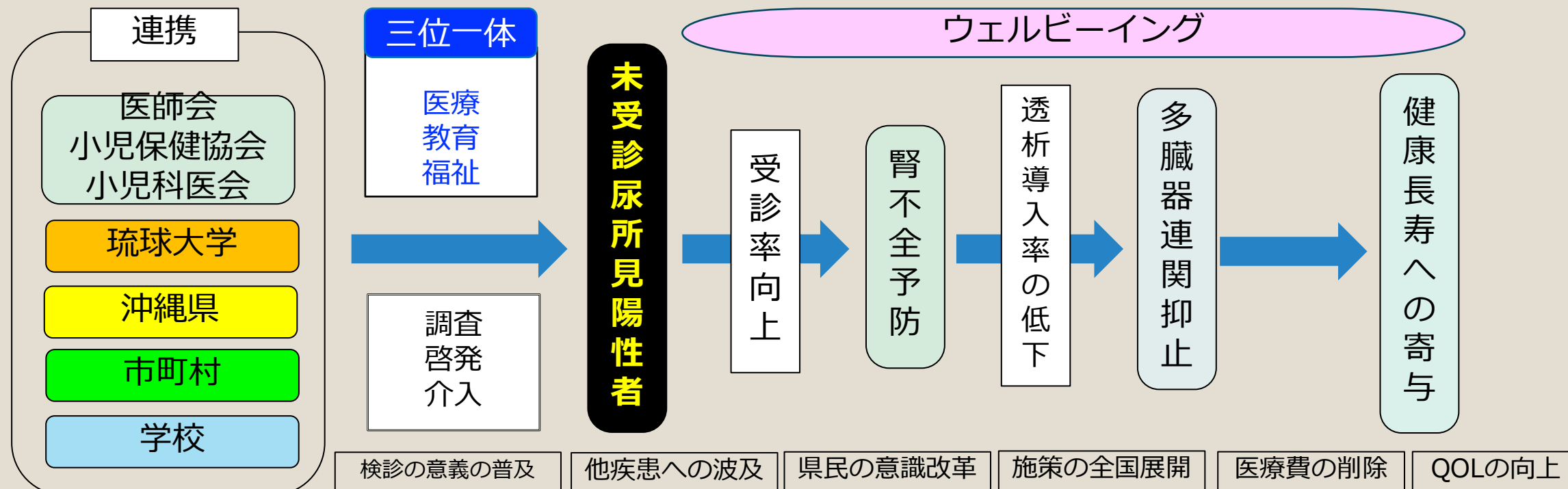
- 沖縄県における小児救急は常に逼迫
- 受診する側の問題点： **経済的理由により仕事を休むことができない**、夜間であれば3次救急であっても**選定医療費を支払う必要がない**こと等が推測されている
- 実態調査
- オンライン相談・診療の実証研究
- 医療体制の改善のための政策提言、受診者の受診行動変容に繋げる。

学校検診等と子どもの貧困に係る因果関係に関する調査

＜学校検診要精密検査者の受診率＞ 小学生では九州が**73%**に対して沖縄が**45.0%**
中学生では九州が**65%**に対して沖縄が**22.1%**と極端に低い

＜人口あたり血液透析患者＞ 全国一多い

【スキームと波及効果】



全世代アプローチによるこども真ん中ウェルビーイングの実現へ

《医療・福祉連携》

ヘルスリテラシー向上
プログラム
プレコンセプションケア

《教育・福祉連携》

サードプレイス活用
に関する実践研究

《医療・福祉・教育連携》

学校検診等とこどもの貧困に
係る因果関係に関する調査

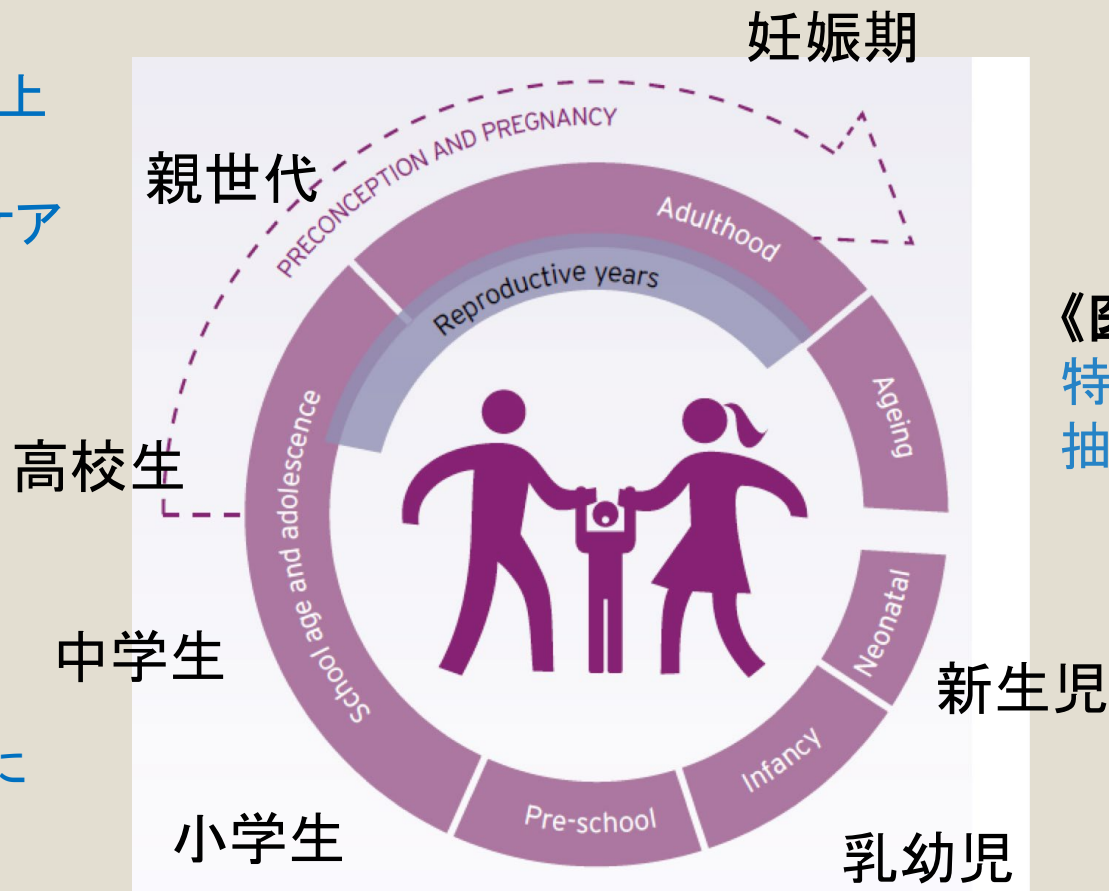
《福祉部門》

「支援指標」の作成と
その共通言語化

幼児

《医療・経済界連携》

小児救急の適正化



《医療・福祉連携》

特定妊婦・社会的ハイリスク妊娠の
抽出と福祉・教育との連携

こどものウェルビーイング向上の先にあるもの

沖縄：人口に占める15歳未満のこどもの割合 **15.8%(23万人)は全国一位**

全国は11.1% 1366万人(昨年より35万人減)

出生率、合計特殊出生率ともに全国一位

20代後半の有配偶出生率が全国2位

第3子以降割合 全国1位(2025)

地域で子育て 子育てに寛容な社会風土

若い年代から
複数回の出産

童(わらび)どう宝
(安次嶺馨先生談)

統計局ホームページ/統計トピックスNo.145

我が国のこどもの数 - 「こどもの日」にちなんで - (「人口推計」

<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/topics/topi1450.html>

最もこどもが産まれる沖縄で
こどもをまんやかに更なる出生率の向上を実現し
少子化を食い止める全国のモデルに